

# 北日本漁業経済学会 ニュースレター

## 2005年度春季研究集会のお知らせ

北日本漁業経済学会 2005 年度春期研究集会を下記の要領で実施いたします。今期は茨城県で大会を開催する予定であり、春期研究集会も茨城県ひたちなか市（那珂湊）で開催します。参加費無料，参加登録等不要であり，会員外の参加も可能です。会員各位をはじめ，多数の皆様のご参加を期待しております。

日 時：4月22日（金）13：30～17：00

場 所：ひたちなか市漁村センター

〔ひたちなか市和田町3-1-90 TEL. 029-263-7882 JR常磐線勝田駅下車、

茨城交通那珂湊線に乗換え、那珂湊駅下車徒歩10分、那珂湊魚市場ヨコ〕

共通論題： 漁業の「多面的機能」に関する検討

話 題 提 供（いずれも仮称、敬称略）

1. 漁業の多面的機能への国民的関心の実態と施策の課題

麓 貴 光（株・水土舎）

2. 学術会議「答申」の批判的検討

工 藤 貴 史（東京海洋大学）

3. 多面的機能に関する農林業の施策との比較検討

吉 田 謙 太 郎（筑波大学）

4. 霞ヶ浦における漁業の現状と施策の課題 - 内水面漁業と環境・多面的機能の関係 -

二 平 章（茨城県内水面水産試験場）

コーディネーター：二 平 章（茨城県内水面水産試験場）

廣 吉 勝 治（北海道大学大学院）

【趣 旨】

前回のニュース・レターでご案内しましたが、ひたちなか市において「漁業の多面的機能」に関する検討と問題把握を共通論題としました。「水産基本法」でも明記され、先頃学術会議にお

いても推進の「勧告」をされた訳ですが、漁業における「多面的機能」の存在を「自明の理」のように評価をする研究者も無くはない状況ではあるものの、どうも確かな実態認識を脇に置いたまま施策展開が一人歩きしそうな状況が見られます。いかにして、いかなる研究上のテーマと成り得るのか、政策転換の時代にこの問題がいかなる意義を持ち得るのか、それこそ多面的な検討の課題が尽きないテーマだと思います。学会ではいわば未成熟なテーマだと思われませんが、今回、多くの問題提起をしてくれるであろう霞ヶ浦にも近い地域であえて春季シンポの共通論題としました。会員各位の積極的なご参加を期待しています(廣吉)。

#### 【理事会開催のお知らせ】

春期研究集会の開催に合わせて、北日本漁業経済学会理事会を上記研究集会会場にて当日12時30分より実施いたします。理事、幹事の皆様は昼食を各自お済ませの上ご参集ください。

#### 【会費納入のお願い】

年に1度の個人会員年会費の請求を行います。近日中に(学会誌配布の折に)会費納付状況と振替用紙を同封します。この学会の会計年度は10月-9月(現在2004年度)ですが、できれば2005年度分を前納していただければ幸いです。

#### 【新入会員の紹介】

昨年の大会以降、新たに当学会に加入された方を紹介いたします。

伊藤庸介氏(NHK釧路放送局)、工藤貴史氏(東京海洋大学)

サフキナ・イリナ・ヴァチェスラーボブナ氏(三重大学大学院)

なお、昨年大会時で入会されていた新田時也氏(東海大学)については、昨年12月のニュースレターでお知らせすべきところ、掲載漏れとなっていました。ここに記して、お詫び旁々、改めてご紹介させていただきます。

#### 【訃報】

長年にわたり本学会の理事を務めていただいた境一郎さんが、2004年11月23日にお仕事先の沖縄で脳梗塞のため急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、当学会としては理事会名で弔電を打たせていただきましたので、ご報告いたします。

#### 【学会誌第33号の編集状況】

学会誌「北日本漁業」第33号につきましては、編集作業を終え、現在校正作業中です。例年より発刊がやや遅れておりますが、春期研究集会には何とか間に合う見込みです。なお、今号については原稿の締切に遅れる方が続出しました。原稿提出期限の遵守にご協力くださいますよう、会員諸氏に改めてお願い申し上げます。

北日本漁業経済学会事務局(事務局長;宮澤晴彦)

〒041-8611 函館市港町3-1-1

北海道大学水産学部 経営経済情報学教室内

TEL 0138-40-8834 FAX 0138-40-8835

E-mail miyazawa@fish.hokudai.ac.jp